

高津おはなしアーカイブ

長谷川 功 (はせがわ いさお) さん

昭和13年生まれ 78歳
川崎市高津区蟹ヶ谷在住



◆世田谷生まれ

私の生まれは世田谷区用賀なんです。「さつき横丁」ってところに住んでいました。「横丁」なんて今はないですよね(笑)。

7人兄妹の4番目でした。兄、兄、兄、私、妹、妹、弟。私は四男です。長男とすぐ下の妹はもうおりません。

実家の仕事は大工でした。父が酔っぱらうと「上海帰りのリル」「志那の夜」などを歌っていたのを覚えています。

戦争で3歳ごろから福島県のいわき市(当時は平(たいら)といた)の叔母の家に疎開していたんです。

冬の間だけってことで、夜行列車に乗ってね、私と妹二人と弟と4人で行きました。

叔母の家は広くて暖かくて居心地がよかったですよ。そのまま帰りたくないって行って、私だけ居残ったんです(笑)。高校卒業まで12~3年間ずっと福島で過ごしました。

戦争の被害はほとんどなかったです。空襲で山の向こうが赤くなっていたことはありましたがね。

◆帰京、そして就職

卒業後関東に戻りました。向島の親戚の知り合いがやっている鉄工所に住み込みで就職したんです。そこでは2年ほど勤めました。プレス工場でした。

その後、二十歳になった頃に用賀に戻りました。その時はすでに両親はおりませんでした。中学2年の時に父は亡くなり、その半年後に母が亡くなりました。長男である兄も私が福島にいる間に亡くなりました。栄養失調だったことでしたね。ですから家は次男の兄が切り盛りしていました。

用賀の実家に戻ったのが昭和33年頃ですね。すぐに港区田町にあった印刷会社に勤めました。

印刷会社では、入社しても当分は見習いの使い走りです。印刷の仕事はなかなかやらせてもらえないんです。

使い走りも最初の頃は自転車を使ってみました。しばらくして軽自動車の免許をとって、ラビットっていうスクーターを使わせてもらえるようになったんです。

当時の軽自動車っていうのは、四輪の自動車のことじゃなくて、二輪のスクーターのことだったんですよ。免許の試験場でもラビットを使ってましたね。

だけど、ラビットは会社の仕事用で、通勤に使うことはできなかつたんです。通勤は瀬田か用賀から玉電(東急玉川線)の路面電車で渋谷まで行って、その先は山手線で田町へ出てました。

田町の会社に4、5年勤めた後、知り合いの紹介で蒲田の印刷会社に移って、そこで独立するまでの22年間勤めました。

蒲田の会社に勤めて5年ほどしたころに、会社が通勤用に車を買ってくれましたね。自由に使えたものですからドライブ旅行を随分しました。美ヶ原や乗鞍、上高地へは何度も行きました。能登半島一周したり、楽しかったな。

◆蟹ヶ谷に移転

田町の会社にいる時の昭和33年に社内結婚しました。最初は大田区六郷橋近くの家内の実家に2~3年同居していたんですが、隣家の出火で焼けちゃったんですよ。で、そこを売って蟹ヶ谷に引っ越してきたんです。親戚に不動産をやっている人がいたので、その人に探してもらったんです。

元の家のお倍くらいの広さの土地が買えたんで、家内の両親と私たちの家と2軒建てることができました。

当時は私たち親子の2軒を含めても家が3軒しかなくて、周りはジャガイモ畑でした。

ご近所さんは専業農家ではないようでしたが、収穫した野菜をよくいただきましたね。

近所には八百屋と魚屋が入っている富士見ストアっていうのがありました。今、

城南セミナーになってるところです。店はそのひとつだけでしたね。明津には昔から岸精米店がありました。

引っ越して10年以上してから星野さんという八百屋さんができました。それから肉屋さんができて。その後七五三鮎(しめずし)さんね。あそこは元は青々した田圃だったんだよね。それからその隣に大塚さんという床屋さんができたんだ。

近くに戸建ての県営住宅がありました。今は高層住宅になってます。そこが道路から少し低いところに建っていたので、雨が降るとすぐ床下浸水するって話でした。

洋服とかそういった生活用品を買う時には、溝口か小杉に行っていました。元住吉にもお店がありました。

交通はバスが溝口や小杉行きが既に通ってました。

通勤はバスで新城まで行き、そこから南武線で川崎へ、川崎から京浜急行で六郷土手というルートでしたね。あの頃はバスも少なかつたけれど、今は交通の便が本当によくになりましたねえ。

通勤に1時間半ほどかかって、たいいてい8時ごろまで残業があつたので帰宅は10時ぐらい。後は寝るだけみたいな毎日でしたね。

◆変化したこと色々

やがてポツポツと建売住宅が増えてきました。畑がなくなったなと思うと、その後には建売住宅ができていました。そこへ越して来られる方はほとんどがサラリーマン家庭でしたね。一軒だけ大工さ

ん、今は工務店ですけど、サラリーマンじゃないのはそこのお宅だけでしたね。

引っ越してきた頃、尻手黒川道路はまだ未舗装の砂利道でした。バスが来ると遠くからでも砂埃でわかりましたからね(笑)。

越してくる前は、住民が道普請をしていたと聞いていますが、私が越してきてからはやったことがないです。

矢上川の堤防がまだ低くて、桜が植わっていたころは、川が溢れて床下浸水になったこともありでしたね。そのころの矢上川には魚もいたしドジョウなんかも採れました。

堤防がコンクリートで高くなってからは魚は獲れなくなったけど溢れることはなくなりました。川幅が広くなったし、川底を掘って深くもしましたからね。

今蟹ヶ谷保育園になっているところは、越してきた頃は母子寮でした。15、6部屋ぐらいあったのかな。そこをね、よく集会所として借りたんですけど、ある時「女性ばかりの寮なんだから遠慮して」なんて言われて、それから使えなくなっちゃった。

◆ストライキが一週間も

バスの便は今ほど数がなかったけど、通勤するのは不便というほどではなかったですね。ただね、毎年電車のストライキがあってね。総理大臣が中曽根さんのころでしたね。新幹線が一週間止まったこともありましたよ。

ストライキで電車が一週間も動かないと線路が錆びて赤くなっちゃうんですよ。

中小の私鉄はほとんど毎年春闘でスト

ライキをしてました。京浜急行はストライキが少なかった方ですね。

そんなときの通勤は、川崎まではJR（その頃は国鉄って言いましたけど）で行って、そこからは歩きました。橋を渡って、一時間近く歩きましたね。

社長が厳しい人でね、早くから入社して誰が早く来るか見てるの。社長自身は車通勤なんだもんね(笑)。

◆印刷の技術の変化

印刷の技術もずいぶん変わりました。昔はすべて活字印刷（活版印刷）でね、「植字」っていうんだけど、大きな棚からひとつひとつの活字を拾って1ページ分ずつ組んでいくんだ。一冊の本を作るのも大変な作業だったんだよ。

文字の大きさもそれぞれあるから、活字の数なんてものすごい数だからね、その活字を置いておくための場所も必要だった。

印刷屋にとっては活字が財産でした。独立したのは46歳のころです。独立してすぐに軽自動車を買いました。

その頃ってバブルの真っ最中でしたから、すぐに注文がたくさんもらえてよかったです。仕事を断らないといけないこともあったぐらいで。

値段はいくらでもいいからって頼まれたりね。でも暴利をむさぼったりはしませんでしたよ。それが信用につながっていったのかもしれないね。

いくつかの会社でグループを作りましてね、忙しくて間に合わない時は手の空いているところに頼むようにして助け合っていました。

今年でちょうど30年になりますねえ。

お客さんからお客さんへと紹介いただいたおかげで、こちらから営業にいかなくても仕事をいただけて今日まで続けてこられました。

学校からも注文をもらってましたが、先生方って何年かすると異動になるでしょう？するとまた行った先の学校からも注文いただけてね。

今、川崎には小学校が116校、中学が52校ありますけど、市内のほとんどの小中学校と取引させてもらいましたよ。

独立して10年ほどした頃から時代が大きく変わり始めましたね。パソコンが普及してきましたからね。簡単な冊子くらい素人の方でも作れますものね。

◆小学校の変化

私には娘と息子と一人ずつおりまして、2人とも子母口小学校、東橋中学校に通いました。

越してきたときは子母口小学校はまだなかったです。建設中だったですね。

最初は橋小学校の分教場としてスタートして、そちらから、3年生以下の子どもたちが移ってきました。

校庭がまだ完成してなくてドロドロの校庭で入学式をやったんです。スノコを敷いて子どもたちにはその上を歩かせました。

その後2、3年して独立して子母口小学校になったんですね。

東橋中学校ができたのはその2年後位ですね。

◆体育指導員となって

P T Aや子ども会にも関わりましたが、体育指導員を一番長くやったんです。20年以上やりました。今はスポーツ推進員って言ってますがね。

体育指導員っていってもね、あまりスポーツに堪能な人は少ないです(笑)。ソフトボール、バレーボール、バトミントンなどの試合の審判をやったりしてました。そのための講習会なんかも受けましたよ。

子どもがどんどん増えてくるにつれて、子ども会ができ、子ども会同士の野球大会をやるようになったし、橘地区の連合自治会主催の試合なども始まったんですね。

そういう風にしてるうちに、それぞれの子ども会が独立したり、体育指導員が主催して試合をやるようになっていったんです。

試合の審判もしたし、子どもたちと一緒にになって野球やったりバレーボールをやったりもしました。

あの頃は土曜日は休みじゃなかったから、試合はいつも日曜日でした。あちこちでいろんな試合があるし、練習もするしで、日曜日はほとんど子どもたちのスポーツに費やしてましたね。

仕事が土日休みになってだいぶ楽になりました。しばらくしてから学校も週休2日制になりましたね。

仕事も忙しくて大変といえば大変でしたけど、自分にも子どもがいて、子ども会にはお世話になっていたので、できる限りはやろうと思っていました。

◆自治会、子ども会のこと

私が蟹ヶ谷の自治会会長をして16年になります。16年前には人が急速に増えて、田圃がなくなっていました。

マンションも建ち始めて、今では16棟のマンションが蟹ヶ谷自治会に入ります。

以前は280世帯だったのが現在は1,600世帯になっています。

子どもの数も増えて、子母口小学校の児童の三分の一は蟹ヶ谷の子どもです。子ども会がいつできたというのははっきりしないのですが、40年ほど前にはありましたね。

30年ほど前に児童が交通事故で亡くなるのがあってね、その後、朝の一斉登校のときには7人で警備パトロールしてもらっています。おかげですべて無事故です。

◆お祭り、盆踊りは大盛況

八太神社は昔からありましたがね、なにしろ氏子が11軒くらいしかなかったから、お祭りもその人たちでやっていたそうです。どこでお祭りをやっているのかもわからなかったようです。

ちょうど私が自治会長をやらせてもらうようになった頃から、奉賛会を組織化して自治会も一緒になって、本格的なお祭りをやるようになりました。昨年がお祭りの15周年でしたから16年前からですね。

子どもさんも参加して賑やかになりましたよ。7、80人は集まります。大人もいれると100人以上になりますね。

小さいけど御神輿もあるんです。中古

の御神輿を譲ってもらったんですけどね。一時間ぐらい町内を練り歩きます。

子どもさんたちにお菓子とジュースをふるまってねぎらったり、その後反省会をやるんです。

町内の大人の方たちに「よかったら出てください」と声掛けすると、4、5人は来てくれますね。そうするといろいろな人の意見が聞けていいんです。

でも自治会の役員になってくれないかという、そっちはダメなんですね。

盆踊りもやっていますが、2日間延べにして1,600人位参加しますよ。保育園の園庭でやります。抽選券を配るので人数把握しやすいんです。

焼き鳥なんて2,500本も売れるんですよ。100円で売って若干の利益がでますかね。何しろボランティアで給料がいないからできるんですね(笑)。儲けるより喜んでいただくのが目的ですからね。

◆自治会加入率は85%

自治会の加入率はとてもいいですよ。だいたい85%ぐらいが加入していますね。

毎月の定例会は土曜の夜だし、自治会の行事も日曜日にしかやりませんから、お勤めの方でも参加が無理ではないと思って、ここ2、3年若い方にアタックしてるんですが、難しいですね。

こんなに町内会の加入率が高いのだから、皆さん必要性は感じておられるですよ。



(奥に見えるのは市政だより等の仕分けをする棚)

何とか若い人たちに役員を継いでいただいて、新しい感覚で変えていってほしいと願っております。

子どもたちがこの蟹ヶ谷を故郷として思い出してくれたらうれしいですね。

(平成28年10月27日取材)